

原燃輸送㈱における使用済燃料輸送容器のデータ問題について

平成10年10月13日

科学技術庁

1. 経緯

- (1) 原燃輸送㈱は、使用済燃料輸送容器の製造のための試験段階で用いられる、輸送容器の大型試験用模型の内部に使用される中性子遮へい材のデータについて、一部改ざんされていたことを確認し、10月6日(火)夜、当庁に報告するとともに、10月7日(水)、その旨プレス発表。
- (2) 当庁は、報告後直ちに、原燃輸送㈱に対して、実際の輸送に用いられている全ての輸送容器について、遮へい材のデータを確認するよう指示するとともに、10月8日(木)から現地調査を開始。
- (3) 10月9日(金)、原燃輸送㈱及び原電工事㈱は、実際に使用される使用済燃料輸送容器の製造に用いられる遮へい材のデータについても問題があることを確認し、その旨をプレス発表。
- (4) なお、10月12日(月)から、原子力発電所の構内輸送に関して通産省が、海上輸送に関して運輸省が現地調査を実施。

2. 当庁の対応

(1) 現地調査等の実施

- ① 当庁では、10月8日(木)から、原燃輸送㈱、原電工事㈱及び日本油脂㈱の現地調査を実施。
- ② 現在、原燃輸送㈱により、書き換え等が行われた可能性のある記録の確認、分析結果と材料証明の記録照合、問題のある輸送容器の同定作業等が行われており、当庁としては、現地において、このような調査が厳正かつ迅速に行われるように指導。

- (2) 今回の事態の究明を行うため、専門的、技術的見地から検討を行う第三者からなる「使用済燃料輸送容器調査検討委員会」を設置し、事実関係の確認、輸送容器の安全性評価等について公開の場で検討。

3. 使用済燃料の輸送物の安全確認

10月2日に青森県六ヶ所村の再処理施設に輸送された東京電力㈱福島第二原子力発電所の使用済燃料については、原子炉等規制法に基づき、輸送容器に使用済燃料を入れた状態で、遮へいや汚染などについて安全上問題がないことを確認。

4. 今後の予定

- (1) 原燃輸送㈱は、本日10時30分に、これまでの調査結果をプレス発表予定。
- (2) 当庁の調査検討委員会は、本日午後4時30分から第1回会合を開催予定。

5. 今回の事態は、あってはならない遺憾なことであり、当庁としても、これを重く受け止め、迅速かつ厳正に対応してまいりたい。

「使用済燃料輸送容器調査検討委員会」の設置について

1. 設置目的

使用済燃料輸送の安全確保の重要性に鑑み、原燃輸送機における使用済燃料輸送容器のデータ問題に関し、専門的・技術的見地から調査検討を行うため、第三者からなる「使用済燃料輸送容器調査検討委員会」を設置する。

2. 検討内容

- (1) データ問題に関する事実関係の整理と確認
- (2) 輸送容器の安全性評価
- (3) 今後の対応及びその他必要な事項

3. 構成員

秋葉	健一	東北大学	素材工学研究所	教授
安達	武雄	日本原子力研究所	物質科学研究部分析センター室長	
有富	正憲	東京工業大学	原子炉工学研究所	教授
坂本	幸夫	日本原子力研究所	東海研究所中性子科学研究センター 副主任研究員	
中込	良廣	京都大学	原子炉実験所	助教授
(主査)	中澤 正治	東京大学	工学部	教授
	中島 健	神戸大学	工学部	教授
	中村 尚司	東北大学	マイクロン・ラジオアイソトープセンター	教授
	福田佐登志	(財)電力中央研究所	理事	
	山路 昭雄	運輸省船舶技術研究所	原子力技術部長	

なお、必要に応じ追加できるものとする。

4. 事務局

科学技術庁原子力安全局核燃料規制課

5. 公開

検討委員会は、公開で行うものとする。

6. その他

原子力発電所内運搬に関して通商産業省資源エネルギー庁公益事業部原子力発電安全管理課の参画を、また、海上輸送に関して運輸省海上技術安全局検査測度課の参画をそれぞれ得る。